

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 月 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	河本悠吾

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
鹿児島県屋久島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
屋久島実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 10 月 15 日 ~ 平成 28 年 10 月 21 日 (7 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター杉浦秀樹准教授、霊長類研究所 MacIntosh 准教授
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>本実習は、鹿児島県屋久島に生息するヤクザル (<i>Macaca fuscata yakui</i>) について、行動観察とフンの採集・分析を通して、フィールドワークからラボワークまでの一連の流れを知り、またそれぞれに対するスキルを身に着けることが目的である。</p> <p>以下に日程を示す。</p> <p>9/15 移動 (犬山→屋久島) 9/16 フィールドにて行動観察とフンの採集、分析 9/17 行動観察とフン採集 9/18 行動観察とフン採集 9/19 分析 9/20 発表 9/21 移動 (屋久島→犬山)</p> <p>フィールドワークでは、路上で出会った群れを一日中追跡し、フンを採集した。フンを採集するにあたって、のちの分析のために、性別や年齢等を確認できる範囲で記録した。森に入って、動物を追跡するのは今回が初めてであった。サルたちは動きが早く、また急な斜面や岩場なども簡単に移動するため、追跡は本当に大変であった。また森の中ではフンをしている様子が確認しづらく、フンを採集できるようになるまでに時間がかかった。また最初は彼らの排せつ物を拾うということに少し抵抗があったが、最終的にはフンが採集できると喜ぶまでに慣れた。実習期間中は雨の日も多く、ヒルの存在に悩まされた。初日に二か所吸われており、次の日からも靴の中に入り込まれるなど、常に気にしながら移動しなければならなかった。17 日からは、フィールド班と分析班に分かれて活動した。またフィールド班も路上班と森班に分かれた。路上班は基本的に路上にいるサルを観察し、フンを採集する。サルが森に入ると、路上にいる他の群れを探して移動し、観察した。路上は森と違ってフンをしているところが観察しやすいため、個体についての多くの情報が記録できた。森班は路上で見つけた群れが森に入った後もしつこく追跡した。フンの採集は難しくなるが、同じ群れから多くのフンを採集できる。</p> <p>ラボワークとして、フンに含まれる寄生虫の観察を行った。得られたフンから、のちの DNA 解析、ホルモン分析に使う部分を取り除いた。残ったフンは大きなごみなどを取り除いて、顕微鏡で寄生虫の卵を探した。最初は、どれが卵でどれがそうではないのか全く判別ができず、一つのサンプルにかなりの時間がかかった。しかし、一度判別できるとそれ以降はかなりスムーズに進んだ。採集したフンが多く、分析は大変だったが、珍しい寄生虫を見つけたときはとても興奮した。</p> <p>発表はフンを採集した個体とそのフンの情報を関連付けて行った。準備のための時間が足りず、自分の担当したスライド以外の情報をほとんど得ることなく発表することになり、情報共有の難しさを実感した。</p> <p>今回の実習では、行動観察やサンプル採集の難しさを実感し、将来私が実際にフィールドワークをするときのための良い練習の場となったと思う。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



サル



サル



沢を渡る



シカ

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS の支援により行われました。また、本実習に際し、ご指導いただきました杉浦先生、MacIntosh 先生、Claire 氏、Liesbeth 氏に感謝申し上げます。